215908
昭和25年10月18日

左ノ抄報ハ山川少将ノ保護ヲ受ケツヽアル柳田
皆ト申ス者今般奥羽地方ヨリ帰京シタルニ付面
談セルモノナリ

山川浩富田鐵之助廣澤安任三人ノ関係
維新前會津藩ノ京師守護タルニ方リ廣澤ハ會津ノ公
用人ニシテ勢力アリ富田ハ仙台ノ公用人ニシテ互ニ推尊シ
テ知己ト稱セリ而シテ維新後ニ至リ廣澤ハ断然政治
上ニ念ヲ絶チ青森ニ退キ牧畜ニ從事スルヿ二十年今春ニ
至リ山川カ獨立党ヲ組織シ東北大同團結ニ抵抗スルニ當リ
廣澤モ何カ感スル所アリシト見エ頻リニ青森ヨリ首尾相應
スルノ計畫ヲ始メ隱然山川ノ為メニ奔走スルノ姿ナリ又同人富
田氏ニ説テ曰ク君モ銀行総裁ノ職ヲ辞シテ以来閑散ノ
身ナレハ今後ハ專ラ國會ノ為メニ盡力シテハ如何即チ明年

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 342-11

215908
昭和25年10月18日

左ノ抄報ハ山川少将ノ保護ヲ受ケツヽアル柳田
皎ト申ス者今般奥羽地方ヨリ帰京シタルニ付面
談セルモノナリ

山川浩冨田鐵之助廣澤安任三人ノ関係

維新前會津藩ノ京師守護タルニ方リ廣澤ハ會津ノ公
用人ニシテ勢力アリ冨田ハ仙台ノ公用人ニシテ互ニ推尊シ
テ知己ト稱セリ而シテ維新後ニ至リ廣澤ハ断然政治
上ニ念ヲ絶チ青森ニ退キ牧畜ニ從事スルヿ二十年今春ニ
至リ山川カ獨立党ヲ組織シ東北大同團結ニ抵抗スルニ當リ
廣澤モ何カ感スル所アリシト見エ頻リニ青森ヨリ首尾相應
スルノ計畫ヲ始メ隠然山川ノ為メニ奔走スルノ姿ナリ又同人冨
田氏ニ説テ曰ク君モ銀行総裁ノ職ヲ辞シテ以来閑散ノ
身ナレハ今後ハ専ラ國會ノ為メニ盡力シテハ如何即チ明年
ノ國會ノ不体裁ハ欧米人ノ為メニ笑ハルヽハ勿論ナレハ吾儕
ハ此不体裁ヲ匡濟スルノ目的ナリ此目的ヲ達スルニハ先ツ議
員其人ヲ得ルニ在リ故ニ君ハ専ラ議員選挙ニ周旋シテ
ハ如何冨田氏曰ク僕ハ尚ホ両三年ノ餘蓄アリ先ツ野ニ退テ
世間ノ事ニ喙ヲ容レサル積リナリト
秋田会津両鐵道架設有志者ハ先頃山川氏ニ依頼
シ冨田氏ヲ招待シテ社長ト為サントセシニ山川ハ若シ山形
縣有志者カ同意スルナレハ冨田氏ニ右ノ趣申込ムヿヲ
答ヘタリ

山川氏政治上ノ目的

山川氏ハ此夏頃ヨリ其子分ノ勧告ニ依リ学校長ノ職
ヲ辞シ断然東奥ノ野ニ退キ大ニ獨立主義ヲ東北ニ
擴張スルノ念起リ已ニ會津ニ帰リ居タルモ際ニ恰モ條

約改正中止ノ論起リタルヲ以テ再ヒ東京ニ来リ中止論ヲ
賛成シ日夜奔走シタリ其抱持スル処ノ説ハ元来條約ノ
事ハ其道ノ人ナラザレバ議スベキモノニ非サレド自分カ近来
野ニ入リテ實見スル所ニテハ速ヤカニ目下外國人ノ内地ニ入
リ土地所有權ヲ有セシムルハ安全ノ策ニ非スト云フニ在リ
然レドモ大隈大臣遭難ノ翌日赤羽四郎ニ謂テ曰ク大
隈ハ先手ニ斃レタリ惜ムベシ余ハ即カ感スル所アリテ近来
東京政治事業ニ奔走シタレドモ最早断念シタリ今後ハ
明年後ノ國会ニ全力ヲ用フベシ最早日本倶楽部ニモ
参会セサルベシト

山岡氏柳田旅ニ話シテ曰ク岡川村（前海軍卿）カ余
ヲ諭シテ言ルニハ昔シ会津ヲ征伐シタルハ長州人ニテ決
シテ薩摩人ニハアラス長州人ハ元ト会津老公ヲシテ
切腹セシメント欲セシニ薩摩人之ヲ救済セリト嗚呼岡川
村カ余ノ子供視スルモ亦甚シ夫レ長会ノ成敗ハ時勢
ノ然ラシムル所ナリ豈ニ今日ニ至テ喋々スルヲ用トセン
同氏政治上ノ思想ハ温和保守ナルカ如シ

山川大将ノ来訪スル人名
同氏ハ元来社交上ニ冷淡ナル性質ナレハ平生ハ面来ノ
客ノ外ハ別ニ往来スル人モナカリシニ其夏以来ハ
谷中将三浦中将等即チニ来訪セル由又古井仕
嘉門佐ニ友度杯類リニ其門ヲ叩ケリ又秋田縣
ノ大久保鐵作氏ハ桂一等ヲ主ノ森廣沢ト相
連絡シテ所謂ル奥羽主ノ如キモノヲ立テ長ニ山川
ヲ推尊スルノ気味アリ
来年一月ニハ山川氏決心シテ奥羽ノ地ニ退キ

議員撰挙に尽力スルナラシ
先頃会津猪苗代を愚ノ仕事者アリテ縣会議員競
争に金二百円ヲ要スル者中に名護屋氏ナリ百円ヲ無
償ニ出シ又人材ヲ養成スベニ熱心ナル一端ヲ認メ
ザル

伊藤博文文書

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 342-11

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 342-11